

マッピング入門トレーニング

Tableauのマッピング入門トレーニングへようこそ。このトレーニングでは、Tableau Desktopにおけるマッピングのさまざまなオプションと、背景イメージの使用方法について説明します。

地理的な分析は基本的にポイントのプロットから始まります。地図イメージを背景にし、緯度と経度の座標にプロットします。

座標ポイント

緯度経度座標系は、他の座標系と考え方はほぼ同じです。緯度は赤道から南北への距離を示し、経度は本初子午線から東西への距離を示します。

地図上のポイントは、どこにあっても緯度経度座標で表すことができます。Tableauでは、座標は10進法で表現される必要があります。緯度が正の数であれば北緯、経度が正の数であれば本初子午線から東に位置する東経を意味します。このように、地球上の各ポイントが一意的な緯度と経度の座標を持ちます。ちなみに、Tableauでは、Google マップと同じ球体メルカトル図法つまりWebメルカトル図法を採用しています。

緯度と経度のプロット

データセットに緯度と経度のフィールドがある場合は、Tableauが自動的にそれを地図上にプロットします。

また、緯度と経度がないデータでも、都市や国、州といった地理的な名称がある場合には、Tableauが各地点の座標情報を生成し、[緯度(生成)]と[経度(生成)]という名前のフィールドで表示されます。

カスタムジオコーディング

データにTableauで認識されない位置情報が含まれていて、緯度経度座標がない場合は、それをデータベースに追加するか、別ファイルとして用意したデータを組み合わせることで対応できます。詳細については、「Tableauのマッピング機能の拡張」と「カスタムジオコーディング」のトレーニングをご覧ください。

多角形マップ

位置情報を地図上にプロットするには2つの方法があります。エリア全体を1つのポイントまたはマークとしてプロットするか、多角形の図形としてプロットするかです。Tableauには、多角形データ、色塗りマップの機能があり、多くの地理情報がデータとして組み込まれています。また、ユーザーが用意した多角形データをもとにカスタム多角形マップを作成することもできます。たとえば、これはイギリスの国立公園の地図です。詳細については、多角形マップに関するトレーニングをご覧ください。

WMSと背景イメージ

たとえば海流について分析していて、既定のマップが適切でない場合、TableauにはWeb Map Service (WMS)サーバーに接続するオプションがあります。これについては、WMSサーバーに関するトレーニングをご覧ください。歯科カルテで虫歯の位置をプロットするなどの必要がある場合は、画像を直接アップロードして座標を割り当てることができます。こちらについては、背景イメージに関するトレーニングをご覧ください。

最後に

Tableauは、地理的分析のための便利なオプションを幅広く用意しています。カスタマイズオプションも豊富で、各ユーザーの分析ニーズに応えられます。

Tableauの使用方法について、引き続きオンデマンドトレーニングをご覧ください。